



【巻頭言】

ド根性スイカ

—その環境を素直に生きる—

園長 野田大燈

「ド根性スイカ」と題してアスファルトの隙間から葉を広げて立派な実を着けたスイカの報道写真をみました。

買って来た苗スイカを学園の菜園で植え付けても、枯れたり生育の悪いものがあるのに、よくぞ熾烈な環境の中で育ったものだ、と拍手喝采するのは私一人ではないと思います。

学園には現在小学 3 年生より中学 3 年生約 26 人が親元を離れて共同生活を送っています。

時には親兄弟が恋しくて咄嗟的に飛び出してしまう園生もいますが、その胸中が痛いほどに分かります。

一般的には両親や兄弟に囲まれて何不自由なく生活している同い年の人達がありますが、どうして自分だけが苦しく悲しく不自由な生活をしなければいけないのか、とってしまうのです。

私は今までに多くの園生や大人の人達に接してきました。

そして解ったことがあります。 例え話しをすると、A 君は身体が大きくてとも力が強い。B 君は体力がなくて力も弱いのです。

2 人が作業をするときに、体力のある A 君は 20kg の荷物を軽々と運ぶことができますが、B 君はいくら頑張ってもその半分の 10kg しか持つことが出来ません。

その状況を見てあなたは何と意思いますか。「A 君も B 君も同じ重さのものを持たないと不平等だ」「彼は力がないから半分しか持てないけど精一杯頑張っているから許してあげたら…」世の中には生まれつき身体の不自由な人もいます。

健康な人ばかりではないのです。大事なことは自分ができることを精一杯取り組むことで、他の人と比較することはしなくていいのです。

人だけではなく、動物・植物などあらゆるものに与えられた環境は様々です。例えば人種や国柄、そして家庭の経済状態などもそうです。似ている環境だとしても全員が全く同じではありません。その環境はあなたに与えられた唯一の環境です。

ド根性スイカとして新聞やテレビに紹介されたスイカですが、彼がアスファルトの隙間にこぼれ落ちたからこそ、そこに芽を出し葉を出すことができたのです。

でもスイカはテレビや新聞に紹介されようとは思っていなかったはずで。

スイカは精一杯アスファルトの隙間で命を燃やしてただけです。夏の暑さが今以上に続いていたらスイカは枯れてしまったかもしれません。

スイカは枯れてしまう事も新聞に取り上げられることも考えずに自分らしく生きてきたのが素晴らしいのです。

学園での生活も長い間ではありません。その間に他人と比べることなく自分らしく生きることを身につけてほしいと思っています。

—了—

遍路小屋 周辺の整備

9 月 10 日、遍路小屋周辺の清掃活動を行いました。いつもはお接待をする為に訪れる遍路小屋ですが、今回は清掃活動とあって、お接待の時とは違った良い緊張感の中で活動が出来ていたように思います。



お接待

毎週日曜日 14 時から 15 時までの 1 時間、希望者を募って遍路小屋でお接待をしています。参加した子ども達は、遍路道を歩いてきたお遍路さんに、ハーブティやお菓子はいかがですか、と積極的に声を掛けます。

お遍路さんから、親切にしてくれてありがとうと言葉を掛けてもらい、嬉しそうにしていました。

参加した子ども達は「やりがいのあることだ」と嬉しそうに話をしていました。



マグカップで カップケーキ作り

9 月 23 日に食育行事としてマグカップを使ったカップケーキを作りました。自分達で作るとあって、いつも以上に気合を入れて作り始めました。



しっかり
混ぜあわせ
ます!!

味はプレーン・チョコ・チョコバナナ・抹茶チョコ・カレーの 5 種類あり自分が食べたい味を選びました。焼き上がったカップケーキは好評で、「きれいに出来たよ!」と見せに来たり、「美味しかったからまたやりたい!」といった、子ども達の様々な声が聞けました。どこか誇らしげな表情にも見え、とてもうれしい気持ちになりました。



若竹・青峰学級だよ

遍路道の再現 9 月 10 日(木)

新学期スタート!

今年度から市立小中学校の夏休みが一週間短縮され、8 月 25 日(火)から新学期がスタートしました。

登校してくる子ども達は、とても明るい表情をしていました。また、ひと夏過ぎて身長が更に伸びた生徒もいて、子ども達の健やかな成長に教員一同喜びを感じています。

2 学期の学習面・生活面についての目標をそれぞれプリントに書きました。

- ・授業に集中する
- ・高校受験に向けて苦手科目を頑張りたい
- ・友達と仲良くする
- ・たくさんお手伝いしたい

など、児童生徒一人一人が新学期を迎え気持ちを引き締めました。

防災月間

9 月は防災月間でした。台風 18 号等の大雨の影響により、茨城県等において甚大な被害をもたらしています。

中学生は、技術・家庭科で「住まいの役割」について学習しています。防災に対する意識を喚起するために、阪神淡路大震災についての DVD を小中学校ともに鑑賞しました。

映像には、地震発生当時の街の様子、被災された人々の様子が、鮮明に映し出されました。災害の悲惨さを一人一人が深く感じながら、災害が起きたときに安全な行動をとるにはどうしたらよいのか、また周囲の人々への配慮、災害に備え普段から準備しておくもの等について、真剣に考えることができました。

今から 400 年前、江戸時代初期の僧・澄禅によって書かれた遍路日記『四国辺路日記』を再現しようという取り組みが高松市で活発化しています。

若竹学園生もこの取り組みに協力し、遍路道の清掃をしました。子ども達は落ちている草木を拾いながら、この鬱蒼と生い茂っている森の中を当時のお遍路の方が歩いていたという歴史に、思いを馳せながら、まだ夏が残っている暑さの中、一生懸命に活動していました。



遍



路



道



農園だより

先日農園・ハーブ園に植える野菜・果樹の買い出しに行きました。種から植える野菜と苗から植える野菜の合計 5 種類を購入し、近日に植えることにしています。

ハーブ園に植える果樹は 2 種類で、ブルーベリーと温州ミカンです。温州ミカンは早速子ども達が一生懸命植え替えを行っていました。



休日の遊び

9 月に入り、久しぶりに釣り行ってきました。思い思いの場所に行き、穴釣り用の仕掛けを下ろして魚を探しました。魚が釣れる歓声を上げ、すぐに写真を撮ってもらっていました。



ある男の子は、大きなギンポを釣り上げ、学園に帰って来て調理をしてもらい、美味しくいただきました。気候もよく、釣りを思いっきり楽しんでいました。



- 17 日 買物学習
- 23 日 食育行事
- 26 日 月見茶会
太鼓練習
- 29 日 社会見学(レオマワールド)

在籍人数平成 27 年 9 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男子	小学生	1	5	6
	中学生	7	5	12
	その他	0	0	0
	計	8	10	18
女子	小学生	2	0	2
	中学生	4	2	6
	その他	0	0	0
	計	6	2	8
合計		14	12	26

編集後記

今月から本格的に 2 学期が始まり生活リズムを崩してしまう子がいましたが今では外で元気よく遊んでいる姿が見られています。保育士 田部侑梨奈

第 260 号発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈